

## 平成 22 年度 障害者スポーツ文化センター横浜ラポール事業報告

市内唯一である障害者のスポーツ・文化・レクリエーション振興の中核拠点施設として、地域や利用者の様々な状況に即した事業を行いました。運営の基本理念を「リハビリテーションの向上」、「豊かな人生への支援」、「共生社会実現への取り組み」と定め、リハビリテーション・スポーツを核とした各種プログラムの展開、多様な地域資源（横浜市体育協会、各種競技団体等）との連携に基づいた市域での事業を推進しました。

22 年度の開館日数は 343 日（前年度 345 日）であり、施設利用者数は延べ 423,531 人（前年度延べ 422,166 人）でした。

横浜市との協約事項における 22 年度目標値については、障害者等利用者数は 280,000 人のところ 292,142 人と目標値を達成し、また地域支援事業実施回数は 230 回のところ 274 回と目標値を大きく超えて達成しました。

### 1 施設運営事業

障害者等のグループ（団体）または個人による自主的なスポーツ・文化・レクリエーション活動を支援するため、各種のスポーツ・文化施設の貸出を行いました。

今年度の重点的な取り組みとして、日曜日プール利用時間の試行的延長（8 月から 3 月までの計 7 回）と地域支援の推進（身近な地域でのスポーツ・文化活動への支援）を実施しました。

新規の取り組みとして、夜間の利用促進を目的に、月曜日から木曜日の比較的利用の少ないボウリング場において投げ放題とレッドピン賞を実施したほか、ペアマッチのボウリング大会（ラポール館長杯）を 2 回開催いたしました。

また、利用促進策として、区内企業等へのダイレクトメールの発送を試みました。

広報については、広報紙やインターネット等を通して、ラポールの事業を紹介し、障害者の社会参加の促進を図りました。

### 2 スポーツ振興事業

#### (1) 運営方針

初心者に重点を置く「スポーツ人口の拡大」、スポーツを通じた障害者の「自立支援」及びラポールで培ったノウハウの「地域還元」に基づくスポーツ環境の向上をコンセプトに事業を実施しました。

具体的には、

ア リハビリテーション・スポーツを核とした個別指導や各種教室の開催

イ 障害者のスポーツを支える指導者やボランティアなどの人材育成の強化

ウ 各種地域資源との連携強化によるスポーツ環境の拡大

等を中心に実施しました。

特に 22 年度は、中級者向け卓球教室の見直しや高次脳機能障害者に対する支援プログラムの充実、ハマピック事業の位置づけの見直しによるプログラムの整備、開港 150 周年事業の成果を着実に具体化する継続的な事業展開、地域支援の推進に向けた連携システム構築の試みを重点的な取り組みとして進めました。

## (2) 事業内容

### ア スポーツ初期相談

新たにラポールを利用する人に対し、各種教室や施設の紹介等の相談を行いました。また、必要に応じた主治医や担当セラピストへの照会などを通して、利用者が適切なプログラムへ速やかに参加できるよう、第一次のスクリーニング機能を果たしました。

### イ リハビリテーション・スポーツ

医学的リハビリテーションと社会リハビリテーションの中間に位置するリハビリテーション・スポーツをラポールにおけるスポーツ指導の中核と位置づけ、様々な障害者への指導を行いました。

リハセンターとの連携により、重度の障害者に対するプログラムやスポーツ用具等の開発を進め、対象者の拡大を図りました。

日常的にスポーツ相談・健康相談・個別指導等を実施しました。また、特に医療的な配慮が必要と考えられた対象者に、リハセンター医師による医事相談を行いました。リハビリテーション・スポーツ教室として、成人片麻痺者、肢体不自由児、知的障害児、高次脳機能障害者の各クラスを開催しました。

### <リハビリテーション・スポーツの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
各種相談	スポーツ相談や健康相談等	503回	503人
リハ・スポーツ教室（成人）	成人片麻痺者を対象とする教室	30回	333人
リハ・スポーツ教室（学齢）	学齢発達障害児を対象とする教室	12回	73人
リハ・スポーツ教室（高次脳）	高次脳機能障害者を対象とする教室やフォローアップ	63回	1,487人
リハ・スポーツ教室（フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	10回	107人
個別指導	障害に応じたマンツーマン指導	750回	750人
学齢障害児支援	学齢障害児のスポーツ体験 <sup>1)</sup>	25回	124人
体力診断（体力測定）	リハ・スポ教室（成人）の参加者を主な対象とする体力測定	2回	142人
体力診断（セミナー）『ゆるリハ』	体力測定参加者を主な対象者にリラクゼーションの体験 <sup>2)</sup> を中心としたイベント（11月30日）	1回	200人
合 計（前年度） 3,719人（4,252人）			

1) 体験したスポーツ種目は、知的障害児のフライングディスク、肢体不自由児の車いすバスケットボール、陸上及び卓球です。

2) アロマ&ストレッチやマッサージ。

## ウ スポーツ・レクリエーション

障害者がスポーツ・レクリエーション活動に、“いつでも”“どこでも”自由に参加できるように、障害者にとって使いやすいスポーツ施設の運営を行いました。

また、身近な施設においてもスポーツ・レクリエーション活動ができるような環境づくりを推進しました。

スポーツ教室では、リハビリテーション・スポーツとの有機的な連携のもと、生涯スポーツ活動の定着に向けた指導を行いました。また、上級者向けのプログラムを実施し、全国障害者スポーツ大会の予選を兼ねるハマピック競技大会の充実を図りました。

### <スポーツ・レクリエーション教室の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球教室（初心者）	卓球の初心者を対象とする教室	24回	228人
卓球教室（初級者）	卓球の初級者を対象とする教室	24回	228人
卓球教室（フォローアップ）	教室参加後にフォローの必要性が生じたケースへの対応	7回	52人
卓球教室（中級者）	卓球の中級者を対象とする教室	24回	599人
水泳教室（上級者）	水泳の上級者を対象とする教室	20回	333人
水泳教室（はじめてプール）	水泳の初心者を対象とする教室	22回	66人
水泳教室（らくらくクロール）	水泳の初級者で片麻痺以外の方を対象とする教室	40回	1,426人
水泳教室（選手クラス）	水泳の競技選手を対象とする教室	18回	497人
短期水泳教室	学齢の肢体障害児を主な対象として夏季に行った短期の水泳教室	5回	48人
チャレンジ背泳ぎクラス <sup>1)</sup>	背泳ぎの習得を目指すクラス	10回	66人
チャレンジバタフライクラス <sup>1)</sup>	バタフライの習得を目指すクラス	10回	67人
ジュニアダンス教室	発達障害の学齢女子を対象とするダンス教室	30回	463人
横浜F・マリノス futuro	マリノスと協働で開催している知的障害者のサッカー教室	37回	1,352人
アウトドアスポーツ教室	ヨットの体験乗艇を行う教室	15回	123人
合 計（前年度）		5,548人（5,763人）	

- 1) 前年度実施した、フライデーナイトスイミングスクールに変わって実施した新規の水泳教室クラスです。

<スポーツ・レクリエーションの時間の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
グラウンドゴルフ広場	グラウンドゴルフを楽しむ時間	102 回	1,487 人
フライングディスクの時間	フライングディスクを楽しむ時間	10 回	187 人
ターゲットスポーツの時間	ビームライフルやダーツ、吹き矢等のスポーツを楽しむ時間	17 回	68 人
オリジナルスポーツの時間	ラポールで独自に開発したビンゴボールやターゲットボッチャ等のスポーツを楽しむ時間	48 回	1,303 人
卓球の時間	卓球を楽しむ時間	23 回	507 人
ボッチャの時間	ボッチャを楽しむ時間	19 回	160 人
合 計 (前年度)		3,712 人 (3,395 人)	

エ スポーツ大会・交流イベント

障害者のスポーツの普及振興及び競技力向上を目的に「ハマピック」を行いました。「ハマピック」の結果に基づいて全国障害者スポーツ大会への派遣選手を選考し、10月に千葉県で行われた本大会へ選手を派遣しました。なお、代表となった選手には本大会までの間、強化練習を実施し、競技力の向上を図りました。

知的障害者のサッカーの普及を図るため、横浜F・マリノスとの共催事業としてサッカー教室を開催しました。

スポーツフェスタとして「水泳の日」「ボッチャの日」「ボウリングの日」を開催し、健常者を含めた各種目の愛好者間の交流を進めました。また、競技力の向上を目的に「オレンジリーグ（卓球）」「ボッチャリーグ」「フライングディスク記録会」を実施しました。さらに「ラポールの祭典」「障害者スポーツ体験」等の開催を通じて、市民が広く障害者のスポーツを理解できる機会の促進を図りました。

<第15回ハマピックの実績>

プログラム <sup>1)</sup>	内 容 <sup>2)</sup>	回数	参加者数
水泳	身体障害及び知的障害を対象とした水泳競技（4月25日）	1 回	299 人
卓球	身体障害及び知的障害を対象とした卓球競技（4月25日）	1 回	38 人
フライングディスク	身体障害及び知的障害を対象としたフライングディスク競技（4月29日）	1 回	102 人
陸上	身体障害及び知的障害を対象とした陸上競技（5月9日、三ツ沢公園陸上競技場）	1 回	354 人
サウンドテーブルテニス	視覚障害を対象としたサウンドテーブルテニス競技（4月18日）	1 回	15 人

アーチェリー	身体障害を対象としたアーチェリー競技（4月18日）	1回	3人
ボウリング	知的障害を対象としたボウリング競技（4月18日）	1回	64人
バスケットボール	知的障害を対象としたバスケットボール競技（7月4日、8月8日）	2回	170人
ソフトボール	知的障害を対象としたソフトボール競技（11月14日、岸根公園野球場）	1回	49人
バレーボール	知的障害を対象としたバレーボール競技（11月28日）	1回	122人
サッカー	知的障害を対象としたサッカー競技（12月12日、しんよこフットボールパーク）	1回	184人
合 計（前年度）		1,400人（1,221人） <sup>3)</sup>	

- 1) プログラム欄のうち、『水泳』『卓球』『フライングディスク』『陸上』『サウンドテーブルテニス』『アーチェリー』『ボウリング』は個人競技、『バスケットボール』『ソフトボール』『バレーボール』『サッカー』は団体競技となります。
- 2) 内容欄で、特に記載の無いものはラポールのスポーツ施設における実施です。
- 3) 参加者数については、原則としてエントリー時の人数としました。



ハマピックソフトボール競技



ハマピックフライングディスク競技

<スポーツ・フェスタの実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
水泳の日	どなたでも参加が可能な水泳の記録会（7月4日）	1回	518人
ボウリングの日	障害のある方と介護者、家族を対象とした記録会（9月5日、1月23日）	2回	90人
ボッチャの日	どなたでも参加が可能なボッチャの競技会（2月20日）	1回	144人
合 計（前年度）		752人（709人）	

<各種リーグ戦や記録会の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
卓球オレンジリーグ <sup>1)</sup>	卓球やサウンドテーブルテニスの競技力向上を目的としたリーグ戦	12回	472人
ボッチャリーグ	ボッチャの競技力向上を目的とした競技会	10回	231人
フライングディスク記録会	フライングディスクの競技力向上を目的とした記録会	10回	194人
ボウリング記録会	ボウリングの競技力向上を目的とした記録会	6回	148人
全国大会強化練習	横浜市代表選手を対象に競技力の向上を図る練習会	46回	458人
合 計 (前年度)		1,503人 (1,281人)	

- 1) 卓球オレンジリーグには、インターリーグ、トップリーグ、サウンドテーブルテニスリーグを含みます。

<各種研修の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
障害者スポーツ・ボランティア養成入門講座	原則 15 歳以上、横浜市に在住のボランティア活動希望者を対象とした研修会 (5月22日、10月2日)	2回	42人
初級障害者スポーツ指導員養成講座	原則 18 歳以上、横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者かスポーツ・レクリエーションの指導を行っている方を対象とした研修会 (1月15日、16日、22日、30日、2月17日、3月24日)	6回	234人
フォローアップ研修会	横浜市に在住のスポーツ・ボランティア養成入門講座受講者及び障害者スポーツ指導員の方を対象とする研修会 (3月13日)	1回	39人
障害者スポーツ体験研修会	横浜市内の学校を中心に小中学生や教職員へ障害者スポーツの理解を深める体験研修会 <sup>1)</sup>	18回	3,114人
合 計 (前年度)		3,429人 (3,759人)	

- 1) 横浜ラポールのスポーツ施設で行う『受入型』と、ラポール職員が学校等に出向いて行う『出張型』があり、車いすバスケットボールが特に人気の高い種目です。

<第10回全国障害者スポーツ大会の実績>

期 間：平成22年10月21～26日

派遣人数：選手80人・役員41人の合計121人

成 績：金=24個、銀=19個、銅=13個（大会記録10）

金メダル獲得ランキング：全国第9位 メダル獲得率：全国第13位

オ 地域支援

22年度の地域支援は、全体で274回（横浜市との協約目標値は230回）となりました。実施内容は、例年と同様にグラウンドゴルフやボッチャ、ラポールが独自に開発したオリジナルスポーツ等の教室開催や、自主活動グループへの支援が中心です。ただし、介護予防系プログラム（高齢者向けのウォーキングや体操指導）への講師派遣需要が高まる傾向が顕著となってきました。

地域支援の重点項目である、地域におけるネットワーク作りについては、試行的な取組みを開始したところです。地域の状況にも左右されますが、2～3の区で具体的な動きとなりつつあります。

<地域支援の実績>

プログラム	内 容	回数	参加者数
スポーツ教室	原則として地域の障害者を対象としたスポーツ教室	35回	618人
フォローアップ	ラポールのこれまでの取組みにより、地域で自主的なスポーツ活動を開始したサークル等に対する支援	83回	1,272人
研修	地域のボランティア等を対象とした研修	10回	369人
介護予防系プログラム <sup>1)</sup>	主に高齢者を対象としたプログラム	37回	673人
その他	原則として地域の障害者を対象とした出張スポーツ指導や、地域間交流スポーツ大会等の開催	109回	2,863人
合 計（前年度）		5,795人（4,968人）	

- 1) 介護予防系のプログラムは、数年前から増加の傾向にあり、ケアプラザ等からの依頼に応じ、体操やウォーキング、水中運動などの指導を行うものです。リハセンターと連携したプログラムの要素もありますが、高齢者が主な対象者であることを考えると、今後、何処まで対応していくのかについては検討する必要があります。

カ 新しい取り組み

前年度に実施した利用者アンケートを踏まえ、比較的ニーズの高かった日曜日のプールに限り、利用時間の延長を試行的に実施しました。具体的には8月22日から3月27日まで間に計7回の行い、19団体188名の方が参加しました。参加者からは、「泳ぎやすい」「充実した練習ができる」等の声があり、概ね好評でした。

また、当該の団体が営業時間外に泳ぐことで、一般営業時間帯におけるコース利用状況が改善するといった副次的効果もありました。

一方で、今回の試行が6月中旬～8月中旬のプール繁忙期を含めた年間の取組みとなっていないため、その効果を十分評価できないことから、来年度も試行を継続する方針としました。

しかしながら、本年3月11日に発生した震災の関係で、しばらくの間は節電を余儀なくされる可能性が高いため、実際には試行を見送らざるを得ない状況です。

全国障害者スポーツ大会への選手選考を兼ねるハマピックについては、大会としての位置づけを明確にするため、より競技としての性格を高める方針を整理しました。その結果、表彰方法を見直し（他者と競い合って勝ち取った場合のみメダル授与の対象とする）<sup>1)</sup>、平成23年度から変更することとなりました。

また、バスケットボール競技やサッカー競技で実施していた交流目的の試合については、ハマピックとしての実施を取りやめることとし、平成23年度からはスポーツフェスタの種目に改めて行います。

東日本地域の障害者スポーツセンターが持ち回りで開催している、「東日本障害者スポーツセンター協議会」を9月24日（金）・25日（土）の2日間、ラポールで行いました。今回の協議会では、「高次脳機能障害に対する理解と対応」「各センターの特徴を活かした交流事業」「横浜F・マリノス フトゥーロの見学」を中心として積極的に意見を交換しました。

また、「各センターの特徴を活かした交流事業」に関する討議の成果として、早速2月に群馬県が開催したスキー教室へラポールから3名が参加しました。さらに平成23年度には、ラポールが横浜ベイサイドマリーナで展開しているヨット事業に他県から参加していただく予定となっています。

※1) 以前のルールでは、1人で参加したレース（例えば自由形25m）の場合、どのようなタイムで泳いでも、自動的に金メダルの対象となっていました。

## キ 表彰

フランスのプロサッカーチームである「オリンピック・リヨン」を運営するオリンピック・リヨン財団は、スポーツを通じた障害者への援助などを行う社会貢献活動プログラム「sOLidaire(ソリデール)」を行っています。

その活動の一環として「グローブトロッター(世界を旅する人)」をフランス国内より2人を選抜し、世界一周の取材旅行（約20カ国）を行いました。日本には横浜F・マリノスの紹介により、ラポールとの共同事業である知的障害者のサッカーチーム“フトゥーロ”とラポールの運営全体について取材をするため来館されました。

\*平成22年6月10日(木)～11日(金)

グローブトロッターの帰国後、国内フランスで行われた審査・式典で、世界各国のレポートの中から13のプロジェクトが表彰されることとなりました。

その中で、横浜ラポールで行ったフトゥーロの活動を含めた取材が、最も感銘を受けたとされる4つのプロジェクトの1つとなり、今回の寄付金総額10万ユーロの中から1万ユーロ(日本円で約110万円)が寄付される事となりました。



### 3 文化振興事業

「観る・聴く・楽しむ」ための場や、障害者の個々のニーズにあった創作への動機付けを図るための多様な文化的体験・能力開発の場を提供するほか、障害者の生活や文化に関する各種情報を提供することにより、障害者の社会活動・文化活動を支援しました。

#### (1) 文化企画

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」、ラポールシアターでのコンサート等のほか、気軽に参加できる「ラポールファクトリー」を開催しました。

また、様々な文化教室・ワークショップ、陶芸作品の窯焼きを毎月実施しました。

#### ア 文化振興事業

障害者の文化活動発表の場である「横浜ラポール芸術市場」の開催にあたっては、作品・出演者を広く公募し、日頃の活動が発表できる場としました。

<横浜ラポール芸術市場>

プログラム	内 容	回数	参加者数
ラポール美術展	絵画、写真、書、陶芸など約 450 点の力強い作品の展示会 同時に「さをり織り」や陶芸などのワークショップを体験コーナーとして「あなたも芸術家!？」を併催（11月15日～21日）	1回	2,423人
ザ・エンターティナー2010	視覚障害のある方のグループによるトークパフォーマンス（10月23日）	1回	134人
野 点	横浜ラポールを利用しているグループ「お茶の会」による抹茶のサービス（10月31日）	1回	90人
ジョイフルコンサート	障害のある方が参加しているグループの声楽や器楽合奏の合同発表会（11月3日）	1回	284人
いのち 生命のリズム	障害のある方が参加している太鼓のグループの合同発表会（11月20日）	1回	306人
オータムコンサート	横浜ラポールのワークショップから自主サークルで活動しているグループや地域の障害者団体によるコーラス発表会（11月27日）	1回	211人
ドリーマーズ ステージ	障害者によるフラダンスや落語などの合同発表会（11月28日）	1回	111人
みんな de パソコン	障害者のパソコン利用支援グループ「ドリームナビゲーター横浜」による、パソコンを使っの缶バッジ作りや点字名刺作成パソコン相談会と併催（12月4日）	1回	93人

ハートフル コンサート	障害者によるピアノ演奏や器楽合奏等の合同発表会（12月18日）	1回	194人
合 計（前年度）		3,846人（3,153人）	

#### イ 交流事業

障害の有無に関わらず、多くの人々が共に楽しめるイベントを、いろいろな団体と共同企画し、幅広い文化領域にわたって開催しました。

また、1階ロビーで月1回程ラポールファクトリーを実施しました。

#### (ア) 自主・共催企画事業

プログラム	内 容	回数	参加者数
福祉レクリエーションフォーラム in 横浜ラポール	全国福祉レクリエーション・ネットワーク、日本レクリエーション協会と共催による、障害者の文化活動を支える方々を養成するフォーラムを開催（5月15日、16日）	1回	167人
映画上映会「1/4の奇跡」	「くまぷう」という名でも知られる車椅子のミュージシャンによるトーク&ライブ（5月16日）	1回	153人
横浜交流音楽祭	アマチュアとプロ、さらに障害者の演奏家による市民手作りの音楽交流フェスティバル（5月29日）	1回	443人
ラポールの祭典「モバイルプラネタリウム」上映会	ラポールの祭典内で、簡易型プラネタリウムの投影（9月5日）	1回	214人
横浜のかるた展	横浜市内の地元のかるた14種類を集めた展示会（9月28日～10月3日）	1回	392人
字幕付き映画上映会「おとうと」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会（10月3日）	1回	223人
「障害者週間」国際親善交流特別演奏会	日本音楽文化交流協会と共催し、障害者を無料招待したクラシックコンサート（10月30日の昼/夜）	2回	355人
ママさんコーラスワークショップ発表会	春から半年間実施したパパさんママさんコーラスワークショップの発表会（11月7日）	1回	155人
ゲームで遊ぼう	神奈川県アミューズメント施設営業者協会の協力によるゲーム機の無料開放（11月23日）	1回	560人

バリアフリー映 画上映会①「パラ レル」	日本語字幕、音声ガイド付きの作品の上映会 (1月29日)	1回	74人
バリアフリー映 画上映会② 「十五少年漂流 記」	神奈川県内の映画団体とタイアップしての 映画上映会。日本語字幕、活弁士の音声ガイ ドを付けた上映会(2月20日)	1回	48人
字幕付き映画上 映会「アリスイン ワンダーランド」	聴覚障害の方にも楽しんでいただけるよう、 字幕サークルが日本語字幕を付けた映画会 (3月6日)	1回	183人
字幕付きミュー ジカル 「赤毛のアン」	NPO 法人とタイアップした本格的なミュー ジカル。聴覚障害の方にも楽しんでいただ けるよう日本語字幕を付けて実施 (3月19日)	1回	248人
合 計 (前年度)		3,215人 (2,671人)	



字幕付き上映映画「おとうと」



「光のおもちゃ展」

(イ) ラポールファクトリー

1階ロビーを使って、毎月1回、第2土曜日の昼休みに音楽会などを開催しまし  
た。(4月、8月、1月、3月を除く)

プログラム	回数	参加者数
暗闇の世界から光の音を届けたい	8回	64人
ロビーマジックショー		80人
手づくり紙芝居&パネルシアター		64人
みんなでマジックと腹話術を見よう!		63人
くまぼうミニライブ		49人
手づくり紙芝居		45人
みんなで聴こう!クリスマスコンサート		85人
大正琴の音色を楽しもう!		55人

ウ 自己啓発事業

障害者の創作活動や余暇活動を支援するために、対象者やテーマ別に各種の教室・体験会を開催しました。また、陶芸等のボランティア研修や文化登録ボランティアのステップアップ講座を実施しました。

(7) 教室等

プログラム	内 容	回数	参加者数
失語症の方のための情報交換会	リハセンターの言語聴覚士と連携、ST訓練を経た失語症者に対し、テーマに沿った内容の座談会を支援するプログラム	12回	60人
バリアフリークッキング	リハセンター、ラポールを利用した経験のある片麻痺の方を対象にした料理教室(5月22日、29日、6月19日)	3回	24人
バリアフリークッキング in 戸塚フォーラム	「男女共同参画センター横浜」との共催で、主に一人で参加が可能な男性を対象にした料理教室(11月5日、12日)	2回	11人
バリアフリークッキング in あざみ野フォーラム	「男女共同参画センター横浜北」との共催で、主に男性が料理をする料理教室(2月18日、25日)	2回	15人
バリアフリー料理教室	食生活に興味を持ち、栄養や料理についての知識を深めるとともに、簡単で健康的なメニューに取り組んだ料理教室	3回	30人
サンデークッキング	知的障害のある20代、30代成人を主に対象とし、余暇活動の一環として、家庭でも簡単にできるメニューに取り組んだ料理教室	3回	35人
アートサロン	片麻痺等の中途障害者を対象に、毎回季節感のあるテーマを設定、絵画を中心とした教室。今年度より午前、午後の2クラスに増設	18回	138人
ものづくり広場	10～30歳代の知的障害者を主に対象とした、絵画や工作を中心とした教室	8回	77人
造形ワークショップ	重度の身体障害者を主に対象とした絵画や造形作品を制作する教室	9回	41人
コーラス・ワークショップ	障害のあるお子さんとその親たちのためのコーラス教室	5回	105人
夏休み親と子の工作教室	神奈川土建一般労働組合横浜支部の協力による、親子で楽しめる木工やタイル細工教室	1回	62人

陶芸 1 日体験教室	片麻痺、聴覚障害、障害児等年齢や障害の特性に配慮した陶芸体験会	10 回	107 人
合 計 (前年度)		705 人 (777 人)	

(イ) 研修会

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸ボランティア研修	陶芸ボランティアのための釉かけの研修会と片麻痺の方の支援の講義を実施	2 回	24 人
文化登録ボランティアステップアップ講座	自閉症についての研修会	1 回	23 人
合 計 (前年度)		47 人 (26 人)	

(ウ) 陶芸窯焼成

プログラム	内 容	回数	参加者数
陶芸窯焼成個人	陶芸の個人利用者を対象に、有料による素焼きと本焼き	7 回	284 人
陶芸窯焼成大物	障害者を対象に、20 cm以上の大物作品の焼成	3 回	13 人
合 計 (前年度)		297 人・0 団体 (358 人・0 団体)	

(2) おもちゃ図書館事業

おもちゃ図書館事業では、多様なおもちゃ遊びができる場の提供や障害児及び障害児関連団体等を対象にしたおもちゃ等の貸出を行いました。22 年度のおもちゃ図書館利用者数は 8,735 人 (前年度 8,978 人) でした。

また、主に春休み・夏休み期間のおもちゃ展や工作教室、おもちゃ病院など楽しく参加できる行事を実施し、延べ 2,273 人 (前年度 2,837 人) が参加しました。

更に、館外での事業として「出張おもちゃ図書館」等を実施し、地域活動を支援しました。

ア おもちゃ・紙芝居・書籍類の貸出

内 訳	22 年度貸出数	(前年度)
個人 (障害児・保護者等)	3,178 点	(2,987 点)
	1,461 人	(1,383 人)
団体 (療育機関・訓練会等)	2,451 点	(2,269 点)
	424 団体	(407 団体)

## イ 研修会の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
地域指導者研修会	おもちゃ図書館の貸出図書の著者で、自閉症・発達障害関連書を多数出版している浅見淳子さんの講演。協力：横浜市障害児・者を守る会連盟（3月26日）	1回	63人

## ウ 行事・イベント等の実施

プログラム	内 容	回数	参加者数
おもちゃ病院	個人や団体・横浜ラポールの壊れたおもちゃ計 377 点をワイワイおもちゃドクターズ倶楽部のボランティアが修理	12回	個人 87人  団体 26件
みんなのお楽しみ会	お誕生月の児童のお祝いとして手遊びやマジックを実施（第2土曜日）	8回	191人
わくわくボックス	「縁日ごっこ」「クリスマス」などをテーマに、ボランティアや演奏グループが中心になって開催する遊びの会（7月3日、12月18日）	2回	149人
夏のおもちゃ展 2010 「おもちゃ&工作&修理 ドクター体験」	ラポールのおもちゃの貸出ベスト 100 点の展示、物づくりや環境の大切さを広く知ってもらうための工作教室（8月4日～8月8日）	1回	604人
小さな木のおもちゃをつくろう	木のくるまの工作教室（8月4日）	1回	21人
ドクターと一緒におもちゃを直そう	おもちゃの修理教室（8月5日）	1回	8人
夏らしい工作をしよう	金魚すくいなどの工作教室（8月6日）	1回	7人
のこぎり体験！道志村の木でつくろう	森林保護ボランティアグループによる工作教室（8月7日）	1回	25人
四季の工作	貝殻や木の実などの自然素材を利用した工作教室（8月8日、11月6日）	2回	77人
春のおもちゃ展 ～のんびり光と遊ぼう～	春休みに様々な障害のある児童に楽しんでもらうため、光をテーマにしたおもちゃ、きり絵の行燈の展示と遊びのスペース（3月23日～27日）	1回	443人
光を楽しむ工作教室	きり絵ランプや万華鏡などの工作教室（3月24日～27日）	4回	35人

ラポールの祭典 「おもちゃの広場」	神奈川県内のおもちゃ図書館ボランティアによる遊びや工作教室（9月5日）	1回	600人
合 計（前年度）		2,247人、26団体（2,837人）	



「おもちゃ病院」

### (3) 情報ネットワーク

パソコン等の情報端末を通して、社会参加のための情報収集・提供やコミュニケーションの支援を行いました。また、情報バリアフリーを進めるための講座などを行いました。

#### ア 横浜ラポールホームページ運営

##### (ア) ホームページの運営

横浜ラポールのイベント情報等を中心とした、ホームページのコンテンツ制作及び運営を行いました。また、横浜ラポール内の全施設の予約状況及び広報誌（ラポラポ）が閲覧できるページについては、月2回の更新を実施しました。

ホームページアドレス <http://www.yokohama-rf.jp/shisetsu/report/>

##### (イ) 運営状況

年間総アクセス数： 887,930件（前年度：987,725件）

#### イ 情報バリアフリー支援講座等

プログラム	内 容	回数	参加者数
パソコン相談会	パソコンボランティアの協力を得て、初心者を対象とした、パソコンの購入・使用方法等に関する相談会	4回	340人
パソコン体験コーナー	初心者を対象とした、インターネットの利用体験会	3回	8人
夏休み パソコンであそぼ	中高校生を対象とした、パソコンを使ったオリジナル巾着や点字名刺作りなどの講習会	2回	13人
合 計（前年度）		361人（320人）	

#### (4) 地域支援

地域における障害児・者の文化活動を推進するために、市内の施設などと共催事業等を実施しました。

プログラム	内 容	回数	参加者数
バリアフリークッキング in フォーラム 〈再掲〉	「男女共同参画センター横浜」と「フォーラムあざみ野」との共催で、主に片まひの男性が対象の料理教室（11月、2月）	2回	36人
あおばおもちゃの広場	青葉区社会福祉協議会との共催で、地域の障害児と健常児の交流を目的に実施しているおもちゃの貸出や情報提供（通年）	60回	2,250人
海の公園 移動おもちゃ図書館	金沢区の海の公園ふれあいセンターにて、横浜ラポールのおもちゃ・活動紹介の展示（6月12日～14日）	1回	246人
ヨッテク 移動おもちゃ図書館・	ヨコハマヒューマン&テクノランド 2010にて、ラポールのおもちゃ・地域のおもちゃ図書館の活動を紹介	1回	—
ヨッテク 「横浜マイスターの技能体験」	経済観光局雇用労働課の協力を得て、ヨコハマヒューマン&テクノランド 2010内で実施した横浜マイスターの体験教室	1回	173人
出張パソコン相談会	ヨコハマヒューマン&テクノランド 2010内で、パソコン相談会やパソコンに関する福祉機器の展示、缶バッチ作りを実施	1回	270人
横浜市鶴見中央地域ケアプラザ 移動おもちゃ図書館	鶴見区のケアプラザ祭にて、横浜ラポールのおもちゃ・活動紹介の展示（11月21日）	1回	180人
合 計（前年度）		3,155人（2,475人）	

#### (5) 季節行事（新規）

22年度より、利用者の方々に親しまれる「横浜ラポール」として利用者の方々にも参加していただいた季節行事を開催しました。

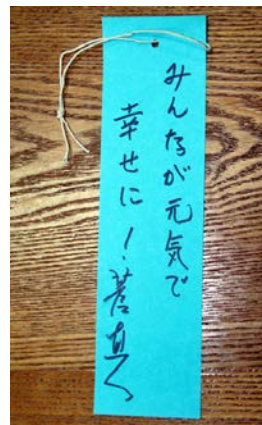
7月の七夕では、利用者の方々から短冊に願い事を書いていただき、地元の方よりいただいた笹竹に飾りました。その他には9月に「中秋の名月」、12月には「クリスマス」2月には「節分」を行い、多くの皆様に参加していただきました。



7月の七夕では、利用者の方々から短冊に願い事を書いていただき、地元の方よりいただいた笹竹に飾りました。その他には9月に「中秋の名月」、12月には「クリスマス」2月には「節分」を行い、多くの皆様に参加していただきました。



「菅前総理大臣がラポールを訪問」



「直筆の短冊」



「七夕飾り」



「クリスマス」

#### 4 聴覚障害者情報提供施設事業

国の定める「聴覚障害者情報提供施設」として、関係機関・団体や他都市の聴覚障害者情報提供施設と連携し、「手話・筆記通訳派遣」「聴覚障害者相談」「ビデオライブラリー」「視聴覚機器の貸出」他の横浜市受託事業を実施しました。

22年度は、特に、4月からスタートした横浜市救急手話通訳派遣事業を横浜市関係部局と連携し実施しました。また、神奈川県警と県下3派遣窓口間で準備を行い、10月から神奈川県警通訳センターからの依頼に対し、24時間対応できるシステムをスタートさせることができました。21年5月からスタートした裁判員制度については、横浜地方裁判所からの通訳派遣依頼に対し、横浜ラポールを含めた県下3情報提供施設で連携し対応しました。

(1) 手話・筆記通訳派遣事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者が、社会生活上必要とする場合に手話または筆記通訳者を派遣し、意思の疎通を支援することにより聴覚障害者等の福祉の増進を図ることを目的として、事業を実施しました。

ア 22年度事業の概況

- (ア) 横浜市非常勤手話通訳者 25 人、横浜市登録手話通訳者 109 人、横浜市登録筆記通訳者 91 人、手話・筆記通訳派遣業務担当職員 7 人で、手話・筆記通訳の依頼に対応しました。
- (イ) 総派遣・紹介人数は 8,403 人（手話通訳 6,872 人、筆記通訳 1,531 人）でした。総派遣・紹介人数及び手話通訳派遣・紹介人数は過去最高でした。
- (ウ) 派遣・紹介人数の通訳者別の内訳は、非常勤手話通訳者が 3,013 人、横浜市登録手話通訳者 3,751 人、横浜市登録筆記通訳者は 1,531 人、手話・筆記通訳派遣担当職員が 108 人でした。
- (エ) 通訳者の研修事業では、自主研修として、登録手話通訳者に対し、登録 1 年次、2 年次、3 年次、4 年次以上、全体を対象に 7 コース（延べ 29 回）、登録筆記通訳者新人研修を 4 回（対象：手書き 16 人、パソコン 13 人）実施しました。また、横浜市聴覚障害者協会の行う手話通訳者養成・試験対策研修を支援（職員を講師派遣）、横浜市中途失聴・難聴者協会の行う筆記通訳者研修を支援（2 回を担当）しました。
- 派遣研修としては、全国要約筆記問題研究集会（愛媛県）、全国聴覚障害者情報提供施設協議会コミュニケーション支援事業担当者研修会（京都府）、手話通訳士専門研修会（埼玉県）、市町村手話通訳者・要約筆記者派遣コーディネーター研修会（神奈川県）に担当職員等を派遣しました。
- (オ) 通訳者との会議・懇談では、非常勤手話通訳者業務調整会議を 11 回、登録手話・筆記通訳者事業連絡会を 1 回実施しました。
- (カ) 神奈川県、川崎市、横浜市の派遣窓口との連携については、窓口会議を 1 回実施した他、21 年 5 月にスタートした裁判員裁判対応につき、昨年度に引き続き 3 窓口と横浜地方裁判所とで協議の場を持ちました。
- (キ) 全国手話研修センターの手話通訳統一試験を導入した認定試験が 12 月に実施され、運営・審査に協力しました。
- (ク) 横浜市関係部局と救急時の手話通訳者派遣システム、筆記通訳者養成研修・登録のあり方等につき協議を行いました。

イ 派遣人数

(ア) 手話・筆記通訳者別派遣・紹介人数

通訳者の種類			派遣人数	紹介人数	合計
手話 通訳者	非常勤手話通訳者	25 人	2,781 人	232 人	3,013 人
	登録手話通訳者	109 人	3,011 人	740 人	3,751 人
	情報提供施設職員	7 人	108 人	0 人	108 人

	小 計	141 人	5,900 人	972 人	6,872 人
	登録筆記通訳者	91 人	1,227 人	304 人	1,531 人
	合 計 (昨年度)	232 人 (233)	7,127 人 (6,710)	1,276 人 (1,147)	8,403 人 (7,857)

(イ) 内容別派遣・紹介人数

通訳内容	手話通訳者		筆記通訳者		合 計	
	派遣	紹介	派遣	紹介	派遣	紹介
医療・保健に関する こと	3,263	2	91	0	3,354	2
	3,265		91		3,356	
司法に関する こと	62	22	3	4	65	26
	84		7		91	
教育・保育に関する こと	946	14	33	6	979	20
	960		39		999	
労働・雇用に関する こと	198	579	31	160	229	739
	777		191		968	
社会生活に関する こと	728	17	39	0	767	17
	745		39		784	
自己啓発に関する こと	132	0	76	0	208	0
	132		76		208	
福祉推進に関する こと	561	338	954	134	1,515	472
		899	1,088		1,987	
聴覚障害者相談の 通訳	10	0	0	0	10	0
	10		0		10	
合 計	5,900	972	1,227	304	7,127	1,276
	6,872		1,531		8,403	

〈うち公的派遣人数〉

通訳内容	手話通訳関係		筆記通訳関係	
	派遣数	%	派遣数	%
医療・保健に関する こと	3,263	55.3%	91	7.4%
司法に関する こと	62	1.1%	3	0.2%
教育・保育に関する こと	946	16.0%	33	2.7%
労働・雇用に関する こと	198	3.4%	31	2.5%
社会生活に関する こと	728	12.3%	39	3.2%
自己啓発に関する こと	132	2.2%	76	6.2%
福祉推進に関する こと	561	9.5%	954	77.8%
聴覚障害者相談の 通訳	10	0.2%	0	0.0%
合 計	5,900	100%	1,227	100%

〈公的派遣のうち、救急手話通訳派遣事業での対応人数〉

派遣窓口開設時間内	3
派遣窓口開設時間外	4

〈紹介のうち、横浜地方裁判所からの裁判員裁判通訳依頼への対応人数〉

回	予定日数	対象	通訳種別	予定人数（実績数）	備考
1	3日間	1人	筆記	手書き 2(2) PC12(4)	選任されたが当日キャンセル
2	3日間	1人	筆記	手書き 2(0) PC18(0)	震災のため公判中止

※通訳数は、横浜・県・川崎の合計数

〈紹介のうち、神奈川県警通訳センターからの事件・事故通訳依頼への対応人数〉

派遣窓口開設時間内	16
派遣窓口開設時間外	0

(f) 市外での通訳者への対応状況

通訳者の派遣を依頼した事業所	件数
埼玉聴覚障害者情報センター	11
社団法人高知県聴覚障害者協会	1
山梨県立聴覚障害者情報センター	1
松山市身体障害者福祉センター	1
千葉聴覚障害者センター	8
社団法人福島県聴覚障害者協会	14
神奈川県聴覚障害者福祉センター	1
群馬県聴覚障害者コミュニケーションプラザ	1
社団法人札幌聴力障がい者センター	1
合 計	39

(g) キャンセル・変更等処理件数

内 容	件数	説 明
通訳者が手配できなかった	13	前日窓口終了後や当日の依頼で派遣不可能 等
依頼者からのキャンセル	292	取消、日程変更、主催行事中止、自然災害 等
派遣対象外	18	派遣場所が市外で、内容が市外派遣対象外 等
他都市の派遣窓口を紹介	79	広域の派遣として他都市窓口との連携 等
通訳者の変更	0	通訳者の事情（病気等）で変更 等
日程変更	6	派遣日の変更
合 計	408	

ウ 研修事業

(7) 自主研修

a 登録手話通訳者1年次研修（対象者：7人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月17日	読みとり実技	7人	職員1人
2	6月7日	派遣事例検討	7人	職員2人
3	7月5日	聞きとり実技	7人	池田京子氏（非常勤手話通訳者） 職員1人

4	8月2日	各場面模擬通訳(1)	7人	小泉和子・松田邦子氏（登録手話通訳者）、小平靖子氏（横聴協） 職員1人
5	10月25日	各場面模擬通訳(2)	6人	森本典子・齋藤順子氏（非常勤手話通訳者）、小泉和子氏（登録手話通訳者）、島野紫都氏（横聴協）
6	2月21日	自己点検報告書まとめ	7人	職員2人

b 登録手話通訳者2年次研修（対象者：11人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6月28日	ビデオ事例検討	11人	太田佳代子氏（世田谷福祉専門学校）
2	7月26日	対人通訳事例	11人	職員1人
3	9月27日	事例検討 ロールプレイ	11人	浪川成海・水口順子氏（非常勤手話通訳者）、小泉和子氏（登録手話通訳者）、職員2人

c 登録手話通訳者3年次研修（対象者：5人）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月31日	問題解決のステップ（医療）	4人	太田佳代子氏（世田谷福祉専門学校）
2	8月30日	事例検討 ロールプレイ	5人	金山ひとみ氏（非常勤手話通訳者）、 小泉和子氏（登録手話通訳者）、 職員1人
3	10月18日	医療講義 模擬通訳	5人	小泉和子氏（登録手話通訳者）、 職員1人

d 登録手話通訳者4年次以上選択研修（3コース）

〈聞きとり通訳コース 対象者：選択29人、聴講35人〉

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	5月22日	選挙通訳演習	49人	新中理恵子氏（登録手話通訳者）
2	7月10日	パワポイント場面演習	59人	木村誠氏（登録手話通訳者）
3	9月11日	大会通訳演習	57人	仁木尚美・島野紫都氏（横聴協）、 職員1人
4	11月27日	個別収録指導	54人	木村誠氏（登録手話通訳者）
5	1月22日	聞きとり演習まとめ	31人	木村誠氏（登録手話通訳者）

〈読みとり通訳コース 対象者：選択30人、聴講39人〉

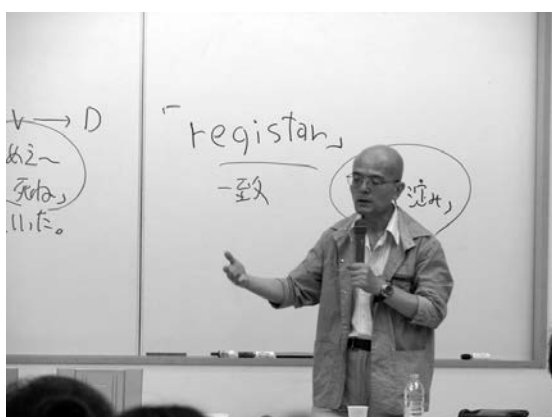
回	実施日	内 容	参加	講 師
1	7月10日	読みとり演習（同時）	71人	渡邊智子氏（非常勤手話通訳者）
2	8月28日	読みとり実践（同時）	65人	職員1人
3	9月11日	大会通訳演習	69人	早川代志子氏（登録手話通訳者）
4	11月27日	読みとり演習（翻訳）	53人	職員1人
5	1月22日	読みとり演習(グループワーク)	49人	職員1人

〈対人援助コース 対象者：選択 17 人、聴講 33 人〉

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	6 月 19 日	事例検討	42 人	斎藤知子・小島祐美氏（非常勤手話通訳者）
2	7 月 31 日	事例検討（相談員）	37 人	小泉和子氏（登録手話通訳者） 職員 3 人
3	10 月 23 日	事例検討（派遣）	40 人	職員 2 人
4	2 月 26 日	講義「手話通訳者と対人援助」	39 人	森せい子氏（聴力障害者情報文化センター所長）
5	3 月 12 日	事例検討（相談員）	中止	東日本大震災翌日のため中止

e 全体研修（対象者：全登録通訳者）

回	実施日	内 容	参加	講 師
1	8 月 7 日	講義「手話のある裁判員裁判」	91 人	渡辺颯修氏（甲南大学法科大学院長）
2	11 月 6 日	講義「言語としての手話」	68 人	原大介氏（豊田工業大学教授）
3	2 月 19 日	健康講座「通訳者の健康管理について」	65 人	武田紀子氏（芝大門クリニック医療トレーナー）、職員 3 人



講義「手話のある裁判員裁判」



講義「言語としての手話」

f 横聴協支援事業（手話通訳者全国統一試験対策）

回	実施日	内 容	参加	支援内容
1	8 月 19 日	試験概要説明	28 人	職員 1 人を講師派遣
2	10 月 27 日	手話要約試験評価	25 人	〃
3	11 月 17 日	手話場面試験評価	25 人	〃

(i) 派遣研修

名 称	期日	場所	派遣者
全国要約筆記問題研究集会	6 月 12 日～13 日	愛媛県	職員 1 人
全聴情協コミュニケーション支援事業担当者研修会	7 月 21 日～23 日	京都府	職員 2 人
手話通訳士専門研修会	8 月 30 日～9 月 3 日	埼玉県	非常勤 1 人、職員 1 人

市町村手話通訳者・要約筆記者派遣コーディネーター研修会	9月7日	神奈川県	職員1人
-----------------------------	------	------	------

(2) 聴覚障害者相談事業

聴覚障害者及び音声又は言語機能障害者の日常生活の各種の相談に応じ、個々の実情に即した適切な処遇を図り、聴覚障害者等の福祉の向上に資することを目的として事業を実施しました。

22年度は、特に高齢ろう者（独居・夫婦世帯）への計画的な出張相談の拡充を図りました。

ア 22年度事業の概況

- (ア) 総相談件数は768件に対応しました。ラポールへの来所相談に加えて、出張相談（関係機関とのケースカンファレンス等）は前年より増加し、関係機関と連携しながら相談支援を行いました。
- (イ) 相談者の実数は173人、内聴覚障害者（個人）は162人でした。
- (ウ) 聴覚障害者精神保健研究集会（年1回）、関東ろうあ者相談員連絡会（年5回）に参加し、相談業務の一助としました。
- (エ) 横浜市障害者社会参加推進センターの「補聴器相談検討会」にオブザーバー参加し、事業のあり方について検討を行いました。また、23年2月12日の講座「聞こえと補聴器」の運営に協力しました。
- (オ) 東日本大震災の聴覚障害者支援のため、横浜市内避難所（2カ所）へ訪問調査を実施しました。

イ 相談の内容

(ア) 相談内容

相談内容	実件数		延べ件数	
	件数	割合	件数	割合
医療	53件	12.7%	129件	16.8%
職業	23件	5.5%	41件	5.3%
教育	1件	0.2%	2件	0.3%
住宅	30件	7.2%	49件	6.4%
生活	158件	37.8%	297件	38.7%
福祉	132件	31.6%	211件	27.5%
法律	21件	5.0%	39件	5.1%
その他	0件	0.0%	0件	0.0%
合計 (昨年度)	418件 (435)	100%	768件 (937)	100%

(イ) 相談の場所

面接場所	22年度	21年度	20年度
ラポール	602回	786回	728回
出張	166回	151回	121回
	訪問 90回	78回	65回

	同行	29回	35回	26回
	同席	45回	23回	23回
	ケース会議	2回	15件	7回
合計		768回	937回	849回

ウ 相談者の状況

(ア) 障害別件数

種類		実人数		
聴覚障害者（個人）	ろう者	145人	89.5%	83.8%
	難聴者	17人	10.5%	9.8%
	小計	162人	100%	
健聴者（個人）		10人		5.8%
団体		1人		0.6%
合計		173人		100%

(イ)聴覚障害者（個人）の居住地域

地域名	実人数		地域名	実人数		地域名	実人数	
鶴見	11人	6.8%	旭	13人	8.0%	戸塚	5人	3.1%
神奈川	11人	6.7%	磯子	3人	1.9%	栄	11人	6.8%
西	6人	3.7%	金沢	5人	3.1%	泉	5人	3.1%
中	7人	4.3%	港北	9人	5.6%	瀬谷	4人	2.5%
南	4人	2.5%	緑	16人	9.9%	市外	5人	3.1%
港南	12人	7.4%	青葉	8人	4.9%	不明	0人	0.0%
保土ヶ谷	16人	9.9%	都筑	11人	6.8%	合計	162人	100%

(3) ビデオライブラリー事業

聴覚障害者用に字幕を挿入したビデオ及び通訳者用教材ビデオの自主制作を行うとともに字幕・手話入りビデオの貸出を行いました。

ア 22年度事業の概況

(ア) ライブラリーの制作では、字幕付き映画会等の字幕3作品、通訳者用教材ビデオ等47作品、合計50作品を制作しました。字幕制作については字幕サークル「まじっく」の協力を得ました。

(イ) ライブラリーの貸出は、74件の実績でした。

イ ライブラリーの制作

種類	作品名	備考
字幕付き映画上映会等の字幕制作	「おとうと」（映画会） 「アリス イン ワンダーランド」（映画会） 「赤毛のアン」（音楽劇）	ラポール文化企画事業との連携（字幕制作と投影）



通訳者用映像教材等の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「翻訳論」</li> <li>・講義「人や家族の価値」</li> <li>・講義「手話のある裁判員裁判」</li> <li>・講義「言語としての手話」</li> <li>・通訳者研修用教材 43本</li> </ul>	手話・筆記通訳者派遣事業との連携
--------------	---	------------------



字幕付映画会「おとうと」



字幕付映画会「アリス イン ワンダーランド」

#### (4) 視聴覚機器貸出事業

聴覚障害者団体や聴覚障害者を支援するサークル等に視聴覚機器の貸し出しを行いました。総貸出 件数は 959 件でした。機器点検は年 12 回（毎月第 2 火曜日）実施しました。

内 訳	在庫数	件 数
Ｏ Ｈ Ｐ	4	59
ス ク リ ー ン	7	139
磁 気 ル ー プ	1	42
液晶プロジェクター	3	140
テープレコーダー	3	81
ビ デ オ カ メ ラ	2	50
Ｏ Ｈ Ｃ	3	64
VHS ビデオデッキ	1	16
パソコン文字通訳用機器	2	195
パソコン文字通訳用機器個人用	2	173
合 計 (前年度)		959(700)

#### (5) その他の事業

##### ア 広報事業

関係機関・団体および通訳者に対して聴覚障害者情報提供施設事業を紹介するため、機関紙「横浜ウエーブ」を年 6 回偶数月に各 600 部発行しました。

##### イ 頸肩腕特殊健康診断

非常勤手話通訳者、登録通訳者（月 5 件以上）及び情報提供施設職員については 7 月、1 月に直接検診を実施。登録手話・筆記通訳者全員には年 1 回問診票による予備検診を実施し 167 人が受診しました。予備検診の結果、直接検診が必要な通訳者は 7 月の直接検診を受診しました。

〈直接検診結果〉

種 類	回	A	B1	B2	B3	C	計	判定基準
非常勤手話 通訳者	1	17	3	0	0	0	20	A:異常ありません B1:疲労回復に心がけましょう B2:働き方の見直しと改善を要します B3:治療と業務軽減を要します C:休業治療を要します (日本産業衛生学会頸肩腕障害研究会)
	2	14	8	3	0	0	25	
登録手話・ 筆記通訳者	1	29	2	0	0	0	31	
	2	27	3	2	0	0	32	
情報提供 施設職員	1	7	2	0	0	0	9	
	2	5	4	2	0	0	11	

ウ 関係機関団体との協議

聴覚障害者団体、通訳者団体、関係機関と年 33 回、通訳者派遣事業・相談事業や聴覚障害者福祉制度等に関する協議を行いました。

エ 全国聴覚障害者情報提供施設協議会

- (ア) 第6回聴覚障害者情報提供施設総会及び大会（6月に岡山県で開催）に参加しました。
- (イ) 全国聴覚障害者情報提供施設協議会関東ブロック会議（8月に群馬県で開催）に参加するとともに各施設の課題のまとめ作業を行いました。
- (ウ) 協議会の手話通訳事業に関する専門委員会委員として、コミュニケーション支援事業担当者研修会（7月21日～7月23日京都府で開催）の企画・運営を担当しました。

オ 視察・実習対応

- (ア) 視察については、世田谷福祉専門学校、千葉県聴覚障害者協会、堺市役所、他に対応しました。
- (イ) 実習は、国立リハビリテーションセンター学院、日本福祉教育専門学校を受け入れました。

カ 行事等への出席

横浜市聴覚障害者の集い、神奈川県ろうあ者大会、横浜いのちの電話評議員会他。

5 広報事業

横浜ラポールの利用を促進し、障害者の社会参加及び障害者とその他の市民相互の交流を図るため、次のとおり実施しました。

(1) 横浜ラポール広報誌・催し物案内の発行

月間催し物案内「ラポラポ」を発行し、市・区役所、障害児・者施設をはじめ、関係機関約 500 か所で配布しました。

(2) 事業概要（年報）の発行

(3) 視察・見学者への施設案内

件数：56 件（前年度 39 件） 人数：939 人（前年度 788 人）

- (4) インターネットによる広報  
ホームページを作成し、広く施設情報を紹介しました。(再掲)

## 6 その他

各種研修・訓練等の実施により、施設の円滑な運営や安全管理を進めるとともに、職員の業務に対する意識の向上に努めました。

### (1) 利用者満足度調査

施設運営上の課題等を把握し、利用者へのサービス向上を図るため、利用者満足度調査を昨年度に引き続き実施しました。

ア 実施方法 アンケート方式（無記名）

イ 実施期間 平成23年2月14日～3月20日

ウ 回収数 390通

エ 結果 問1 利用者の方の年齢はいくつですか？

① 10代以下	61人
② 20代	19人
③ 30代	32人
④ 40代	37人
⑤ 50代	50人
⑥ 60代	124人
⑦ 70代以上	67人

問2 ラポールの利用頻度はどれくらいですか？

① 週に3回以上	105人
② 週に1回～2回	176人
③ 月に1回～3回	75人
④ 月に1回未満	15人
⑤ その他	2人

問3 障害手帳の交付を受けていますか？

① 身体障害者手帳	247人
② 愛の手帳（療育手帳）	55人
③ 精神障害者保健福祉手帳	12人
④ 手帳の交付を受けていない	47人

問4 ラポール利用のきっかけ

① 病院や医院で勧められた	58人
② リハビリテーションセンターで勧められた	103人
③ 地域療育センターで勧められた	21人
④ その他の福祉施設で勧められた	18人

- ⑤ 区役所で勧められた 28 人
- ⑥ 友人・知人に勧められた 128 人
- ⑦ ラポールの広報誌「ラポラポ」を見た 25 人
- ⑧ ラポールのホームページを見た 24 人
- ⑨ その他 71 人

問 5 ラポールを利用しようとした目的

- ① 健康維持・増進 217 人
- ② リハビリテーション 177 人
- ③ 家族や友人等との交流 78 人
- ④ スポーツ活動 136 人
- ⑤ 文化活動 32 人
- ⑥ 余暇活動 73 人
- ⑦ その他 19 人

問 6 ラポールの広報誌「ラポラポ」は役に立ちますか？

- ① とても役に立つ 61 人
- ② まあまあ役に立つ 148 人
- ③ あまり役に立たない 19 人
- ④ まったく役に立たない 4 人
- ⑤ 読んだことがない 123 人

問 7 ラポールのホームページは役に立ちますか？

- ① とても役に立つ 38 人
- ② まあまあ役に立つ 84 人
- ③ あまり役に立たない 18 人
- ④ まったく役に立たない 4 人
- ⑤ 読んだことがない 202 人

問 8 総合受付のスタッフの対応に満足していますか

- ① 満足 186 人
- ② やや満足 124 人
- ③ どちらともいえない 47 人
- ④ やや不満 17 人
- ⑤ 不満 4 人

問 9 スポーツ施設のスタッフの対応に満足していますか

- ① 満足 168 人
- ② やや満足 118 人
- ③ どちらともいえない 49 人

- ④ やや不満 13 人
- ⑤ 不満 5 人

問 10 創作工房のスタッフの対応に満足していますか

- ① 満足 49 人
- ② やや満足 35 人
- ③ どちらともいえない 25 人
- ④ やや不満 6 人
- ⑤ 不満 1 人

問 11 おもちゃ図書館のスタッフの対応に満足していますか

- ① 満足 48 人
- ② やや満足 16 人
- ③ どちらともいえない 4 人
- ④ やや不満 1 人
- ⑤ 不満 1 人

問 12 送迎バスの乗務員の対応に満足していますか

- ① 満足 139 人
- ② やや満足 76 人
- ③ どちらともいえない 37 人
- ④ やや不満 9 人
- ⑥ 不満 3 人

問 13 館内の施設案内表示は分かりやすさという点で満足していますか

- ① 満足 127 人
- ② やや満足 118 人
- ③ どちらともいえない 84 人
- ④ やや不満 20 人
- ⑤ 不満 3 人

問 14 施設や安全確保に満足していますか

- ① 満足 119 人
- ② やや満足 124 人
- ③ どちらともいえない 60 人
- ④ やや不満 13 人
- ⑤ 不満 3 人

問 15 館内の清掃に満足していますか

- ① 満足 174 人

② やや満足	123 人
③ どちらともいえない	30 人
④ やや不満	12 人
⑤ 不満	5 人

問 16 館内の環境（室温・明るさ・温度）に満足していますか

① 満足	162 人
② やや満足	157 人
③ どちらともいえない	24 人
④ やや不満	7 人
⑤ 不満	3 人

問 17 最後にラポール全般の満足度について伺います。

① 満足	146 人
② やや満足	142 人
③ どちらともいえない	40 人
④ やや不満	16 人
⑤ 不満	7 人

(2) 職員研修

職員を対象に研修を実施しました。

研 修 名	回数	参加者数
個人情報取扱い研修	12 回	76 人
救急救命研修会 (7 月 20 日午前・午後)	2 回	42 人
中級スポーツ指導(7 月 29 日～8 月 2 日) 員養成講習会(1 月 7 日～1 月 11 日)	前期 5 日 後期 5 日	1 人
有疾患に対する臨床運動生理学講習会(9 月 5 日)	1 回	1 人
人権啓発研修(精神障害者の人権) (2 月 17 日、2 月 24 日)	2 回	45 人
フィジカルヘルス研修(3 月 3 日)	1 回	22 人
セクシャルハラスメント研修 (3 月 9 日)	1 回	21 人
通報訓練	21 回	75 人
救助訓練	18 回	56 人

(3) 防災対策

ア 自衛消防組織の編成及び任務

自衛消防隊長 副隊長 (館長) — (副館長)	通報連絡班長：消防機関への連絡、館内放送 (管理・文化事業課長)
	初期消火班長：消火器・屋内消火栓による初期消火活動 (スポーツ事業課長：振興担当)
	避難誘導① 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：指導担当)
	避難誘導② 班長：館内利用者の避難誘導 (スポーツ事業課長：人材担当)
	避難誘導③ 班長：館内利用者の避難誘導 (聴覚障害支援課長)

イ 消防訓練の実施状況

実 施 日	内 容
5 月 18 日	横浜ラポールの火災発生を想定したリハビリテーションセンター・横浜市総合保健医療センター・横浜ラポール合同の消防訓練
6 月 25 日	横浜市総合リハビリテーションセンターの夜間の火災を想定したリハビリテーションセンターと横浜ラポール合同の消防訓練
11 月 2 日	横浜市総合保健医療センターの地震・火災発生を想定したリハビリテーションセンター・横浜市総合保健医療センター・横浜ラポール合同の防災訓練

(4) 運営委員会の開催

横浜ラポールの運営に障害者等利用者の意見を反映するため、関係者で構成する運営委員会を開催しました。

開催状況 年 1 回 (10 月 28 日)

※3 月に開催を予定していたが、東日本大震災のため 5 月に延期。22 年度の開催は 1 回。

(5) 施設の利用状況

横浜ラポールでは、障害者を優先的に施設の貸出を行いました。

ア 利用区分による利用状況

利用区分	利 用 者 数	前 年 度
個人利用数	186,232 人 (100.0%)	182,853 人
障害者	133,322 人 (71.6%)	130,185 人

	介護人等	33,419 人	(17.9%)	32,966 人
	一般	19,491 人	(10.5%)	19,702 人
団体利用数		237,299 人 (7,961 団体)	(100.0%)	239,313 人 (7,840 団体)
	障害者	84,935 人	(35.8%)	84,509 人
	介護人等	40,466 人	(17.1%)	38,172 人
	一般	111,898 人	(47.1%)	116,632 人
利用者数	合計	423,531 人(1 日平均 1234.8 人)		422,166 人

※東日本大震災により、3月に2日間臨時休館

イ 障害別による利用状況（個人利用の内訳）

内 訳	利 用 者 数		前 年 度
肢体不自由	86,974 人	(65.2%)	85,739 人
知的障害	23,337 人	(17.5%)	23,151 人
精神障害	6,519 人	(4.9%)	5,950 人
視覚障害	3,958 人	(3.0%)	3,727 人
内部機能障害	5,140 人	(3.9%)	4,586 人
重複障害	4,670 人	(3.5%)	4,019 人
聴覚障害	2,724 人	(2.0%)	3,013 人
合 計	133,322 人	(100.0%)	130,185 人

ウ 施設別区分による利用状況

	利 用 者 数		前 年 度
ス ポ ー ツ 施 設	272,046 人 (100.0%)		261,431 人
プール	77,424 人	(28.4%)	77,721 人
メインアリーナ	66,278 人	(24.4%)	56,072 人
フィットネスルーム	60,313 人	(22.2%)	60,238 人
サブアリーナ	26,922 人	(9.9%)	28,083 人
屋外グラウンド	15,692 人	(5.8%)	13,131 人
ボウリングルーム	11,851 人	(4.3%)	10,873 人



	地下グラウンド	8,459 人 (3.1%)	10,633 人
	テニスコート	5,107 人 (1.9%)	4,680 人
文化施設		151,485 人 (100.0%)	160,870 人
	ラポールシアター	39,361 人 (26.0%)	43,589 人
	大会議室	29,095 人 (19.2%)	28,380 人
	ラポールボックス	26,777 人 (17.7%)	28,506 人
	ラポール座	15,672 人 (10.3%)	18,445 人
	和室	15,096 人 (10.0%)	15,727 人
	創作工房	9,025 人 (6.0%)	9,470 人
	小会議室	7,649 人 (5.0%)	7,479 人
	おもちゃ図書館	8,735 人 (5.7%)	8,978 人
	聴覚障害者情報提供施設 <sup>1)</sup>	75 人 (0.1%)	161 人
	応接室	0 人 (0.0%)	135 人

1) 聴覚障害者用字幕付きビデオ貸し出し人数